

四 恩 園



力を合わせて
こえる

二〇二六年度事業方針



社会福祉法人 北海長正会

理事長 三瓶 徹

はじめに〜これまでもこれからも〜

お陰様で当法人は今年で五十周年を迎えます。これもひとえにお客様や地域の方々、北広島市をはじめ関係機関等の支えがあって、これまで来られたものと感謝申し上げます。この半世紀のなかで社会福祉法人は国の大きな改革を経て今日に至っております。五十周年を節とし、これまでを振り返りながら、これからも地域にあっての事業であることを忘れることなく、私たちが法人が大切にしてきたことやこれから大切にしていきたい事柄について記します。

1. お客様の権利を擁護するため 絶えず原点に立ち返る

社会福祉法人の事業は人の命や生活に直接関わる仕事であります。私たちの使命はケアにおいてお客様の人格を尊重し尊厳の保持に努めることであり、サービスにおいて不適切なケアにおける人権侵害があってはならない

ものです。今行っているケアがお客様の権利侵害につながっていないかを各事業において点検し、不適切なケアがあれば原因を究明し改善しなければなりません。小さなミスでも放置することなく、積み重なれば重大な事故や権利侵害につながることを肝に銘じなければなりません。

絶えず原点に立ち返り、基本理念や倫理綱領を自分のものとし自覚したサービスに努め、お客様に不利益にならないようなことが決ってはならないものです。各事業の取り組みが基本理念や倫理綱領においてチェックをし、見直さなければならぬものは速やかに見直しサービス向上に努めていかなければならないものです。

サービス向上に向けた研修は適時適切に行うことが必要であります。人が人に関わるケアは、対象となる人の精神的・身体的・社会的側面の全人的な関りとなることから、個別の理解が求められ、状態は絶えず変化することから状況に応じた個別の対応が求められます。ケアはチームで行われ、それぞれの専門性において把握された内容の情報との共有は必須となります。それぞれがケアにおける知識・技術など専門性を高めお客様に喜んでいただくサービスを目指さなければなりません。

2. 基本理念のもと 地域のニーズに応える

創設者である長澤雄七氏は、脳血管障害でリハビリ施設の必要性を感じこの地に創設することを決意しました。一九七六年に社会福祉法人北海長正会を創設し、一九七七年重度身体障害者更生援護施設・「北広島リハビリセンター」を開設しました。その後重度の障がい者が利用できる療護施設を開設し北海道の肢体不自由者のニーズに応える資源となりました。

当法人は北広島市の急速な高齢化に対応するために広島町（現在は北広島市）と連携を図り、一九九五年に特養などの施設サービスと広島町で最初となる在宅介護支援センターやデイサービスセンターを開設しました。特に北広島団地の高齢化は著しく特養を核としながら、北広島市の委託を受けホームヘルパーの事業を開始しました。基本理念のもと二〇〇〇年の介護保険制度施行後、「地域交流ホームふれて」「北広島団地地域サポートセンター」ともに「地域サポートセンターみなみ」などの拠点を設け相談事業・訪問事業・通所事業やグループホーム、サービス付き高齢者向け住宅など在宅サービスの充実を図り地域のニーズに応えるとともに地域交流事業にも力を入

テーマ 『法人設立50周年 こえる(超える・越える)』

れ、誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりに取り組んでおります。

3. 共生の理念に基づくサービスとつながりをつくる地域交流

「共生の理念」は障がい者支援に欠くことのできない視点であります。障がい者がリハビリを行い社会復帰し地域の人たちと共に生きるという意味での「共生」の考えでもあり、リハビリは権利の復権とも言われました。一九九三年に改正された障害者基本法は、法の目的に「全ての国民が、障害の有無によつて分け隔てされることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現」すると謳っています。

今日の地域共生社会の実現に向けた二〇二二年の法改正は、これらの障害者基本法の理念とともに、日本の人口構造による超高齢化社会がもたらす孤立や孤独など様々な課題に対応するためのものとも言えます。当法人は開設以来、サービスの充実とともに地域の方々との交流を大切にしてきました。竹山さくら祭りや地域のお祭りへの参加・協力、また「ふれて」や「ともに」での市民スタッフによる各種交流事業が地域の活性化につながっております。これからも「人と人のつながりから生きることの喜びを知ろう」をスローガンに努めて参ります。

4. 三位一体の取り組み

地域共生社会の実現には、住民、行政、事業者の三位一体の取り組みが欠かせないものです。また、それぞれの役割を理解するために自助、共助、公助の視点が肝要となります。自助は、自分にしかできないことは自分で守るということです。自助、共助、公助は住民、行政、事業者のつながりや連携があつてはじめてその機能を持つことができるものです。交流イベントや社会参加は自助と共助が、災害時要援護者への支援や環境の荒廃を防ぐことや虐待防止などは公助と共助の機能が求められます。保健・医療・福祉サービスや健康寿命延伸、違法な販売の情報提供などは公助と自助の役割が重要となります。

法人の役割は三位一体を心がけ事業者としての専門性を活かし、住民と行政の橋渡しや、住民同士のつながりを支援し、地域共生社会実現の一翼を担って参ります。

5. フィットネス事業でこえる

二〇二四年に北広島市生涯現役地域づくり環境整備協議会より当法人にフィットネス事業への取り組みについて依頼があり、法人として取り組むことを承諾いたしました。当法人は、市からふるさと納税や市社協の共同募金な

どの補助を得て二〇二六年四月にフィットネス事業を開業することになりました。

社会福祉法人の使命は、障がい者や高齢者の制度に基づくサービスの提供とともに地域が抱える生活課題について、社会福祉法人の持つ自立性、公益性、独自性、主体性、先駆性をもって事業を展開し、地域住民が安心して暮

五十周年を期に施設の名称変更

五十周年にあたり「北広島リハビリセンター」の名称を変更します。名称には五十周年の節目の年であり、テーマでもある「こえる」を使うことにしました。五十年前の施設創設時はリハビリの資源が限られ、それを創設者が憂い建設に至ったことは冒頭にふれました。この半世紀の間に、リハビリの病院や施設が充実すると共に、国が身体障害者を施設から地域へと移行する制度転換もありリハビリ施設としての役割を終えたと判断し、当法人は二〇二一年に重度身体障害者更生援護施設「北広島リハビリセンター更生部」を廃止しました。このような経緯を踏まえ名称を検討し理事会、評議員会の承認を経て二〇二六年四月から名称を変更することとなりました。

らすことのできるサービスに努めることとあります。当法人が行うフィットネス事業は、身体機能の維持・改善とともに、事業を通して人と人のつながりをつくる取り組みを合わせて行います。住民の健康寿命の延伸と地域の高齢化による孤立・孤独の防止にも寄与するものと考えております。

現在の「北広島リハビリセンター療護部」を「障がい者支援施設こえる北広島」とし「付属診療所 北広島リハビリセンター診療部」は「こえる北広島 付属診療所」にしました。「こえる」には言葉の持つ力強さや現状維持ではなく常に前向きにより良い状態を目指すという明確なメッセージが伝わります。三文字は拠点ごとに「ふれて、ともに、みなみ」の拠点名となっており「こえる」で統一感を表すことができます。

また、「特別養護老人ホーム 北広島リハビリセンター特養部四恩園」は「北広島特別養護老人ホーム 四恩園」と変更します。

2026年4月15日オープン



「ともに」の体育館が フィットネスジムに!

tomoni club

「tomoni club」では、地域のウェルビーイングを支える新しい拠点として、身体を鍛えるだけでなく、心とつながりを育むフィットネスに取り組みます。3つのウェルビーイングとして、①**身体のウェルビーイング**（体を動かす喜び）②**こころのウェルビーイング**（安心・こころのやすらぎ）、③**社会的ウェルビーイング**（人と人のつながり）を大切にします。



身体のウェルビーイング

身体を動かす喜び

- ・専門職（PT・OT）の配置
- ・セミパーソナルトレーニング
- ・評価、アセスメント
- ・大学との連携



こころのウェルビーイング

安心・心の安らぎ

- ・専門職（包括）の相談支援
- ・ミニ講座で正しい学び
- ・ウェルネス体操
- ・ポイント制度



社会的ウェルビーイング

人と人とのつながり

- ・趣味を通じたつながり
- ・運営サポーターの組織化
- ・イベント開催
- ・就労への“再チャレンジ”支援

事前エントリーキャンペーン

入会金
通常 2,000 円のところ

先着 150 名

0 円 +

特典プレゼント!



限定オリジナル
バック&
ともに喫茶
コーヒーチケット
デザイン・仕様は制作の都合により変更となる場合がございます。ご了承ください。



事前エントリーがおすすめ!

- ✓ 内覧会でじっくり相談ができる!
- ✓ 優先案内で一足先に体験ができる!
- ✓ 最新情報をメールで受信できる!



内覧会・体験会等の案内を優先的にご案内いたします。

無料巡回バス運行予定

ご利用上の注意

- ・運行は、平日（月～金）のみとなります。土日祝・休館日は運休いたします。
- ・送迎バスは定員29名のマイクロバスで、車いす対応ではありません。

tomoni club概要

事業名称	tomoni club
実施場所/住所	北広島団地地域サポートセンターともに 北広島市緑陽町1丁目2番地
対象者	どなたでも利用可
内容	セミパーソナルトレーニング/フロアプログラム/講座/評価
営業日	日曜日～土曜日 休業日：年末年始 他臨時休館日あり
営業時間	9時30分～21時00分

(フロアプログラムの開催時間：月曜日～金曜日 10時00分～17時00分です。)

一人だと続けるのが
不安！な方に

\\ オススメ \\

マイペースに取り組みたい方に

セミパーソナル会員

1. 専門職^{*}によるプログラム・評価
 2. フロアプログラム参加制限なし
 3. センサーモーショントレーニング導入
- ^{*}作業療法士・理学療法士等の国家資格保持者
^{*}専門職対応時間は9:30～17:00となります。
(月～金)

5,000 円
(税込価格 5,500円)

フリー会員

1. トレーニングマシンの利用
2. フロアプログラム一部参加可能
3. 予約不要で気軽に利用

3,000 円
(税込価格 3,300円)



体育館で盛大に行われました



ねじりはちまきと法被が似合います

四恩園・ともに・ふれて 餅つき大会



力を込めて「よいしょ」



丸めは市民スタッフがお手伝いしてくれました



2026(令和8)年 午年
年男・年女さんへインタビュー
「今年の抱負」

年男さん

内田 隆 様

1930 (昭和5)年生まれ
(サ高住しおん お客様)



サ高住しおんは設備は良く、職員の皆さんのサポートも良く、安心・感謝! 今年も健康に留意して余生を楽しみたい。

※(職員より) 週1回のゴロッケー(冬も総合体育館で継続)、ともにポッチャ等、積極的に身体を動かし健康に努められています。

年女さん

立石 幸子 様

1942 (昭和17)年生まれ
(居宅介護支援事業所 お客様)



1年を振り返ると反省することが多くあったので、今年は突発的な受診がないよう健康で元気に過ごしたいです。趣味の革工作をしばらくお休みしていたので、今年は少しずつ始められたらいいなと思います。(持っている水色のしずく型のランプは、ご本人が手作りしたものです)

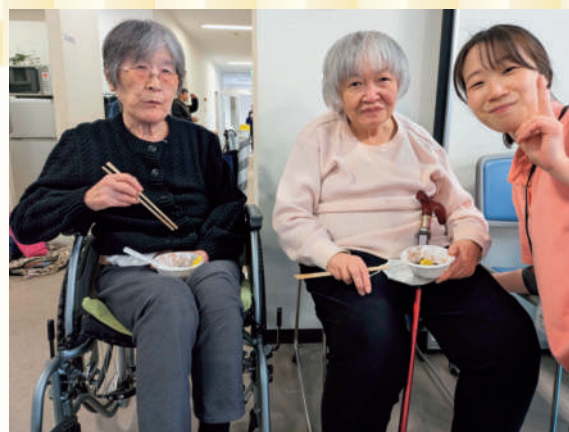
齊藤 玲子

1966 (昭和41)年生まれ
(地域サポートセンターともに 職員)



今年が年女です(60年に一度の丙午)。そして、還暦を迎える特別な年でもあります。周りの皆様に支えられ今日まで健康で元気にお仕事が出来ている事に感謝です。

今年も健康第一に元気に駆け抜けて行きたいと思います。



つきたての美味



市民スタッフ皆さんで「よいしょ」



ご家族も一緒に



熟練の丸めです



お客様のあいどり

四恩園のこれまで

これまでの歩みを四恩園の機関誌に掲載された写真で振り返ります。

1997(平成9)年 第2回四恩園敬老祝賀会



1995(平成7)年 建設時の四恩園



1999(平成11)年 第12回北広島リハビリセンター祭



2010(平成22)年 ふれて・かたる開設



2010(平成22)年 ふれてオープニングイベント



2014(平成26)年 ともに開設



2015(平成27)年 とともにイベント



この広報誌のアンケートにご協力をお願いします。こちらから↓



- 発行者 **社会福祉法人 北海長正会**
- 住所 〒061-1153
北広島市富ヶ岡509-31
- TEL (011)373-6655
- FAX (011)373-6611

- ホームページ <https://www.shionen.or.jp>
- E-mail tokuyo@shionen.or.jp
- 編集発行 広報委員会
- 編集発行責任者 理事長 三瓶 徹
- 発行日 2026年2月

